

## ◆第 1 回有識者会議 (R 4 .10.24)

○この会議に期待することや今感じていることについて (委員ごとの発言概要)

地域における赤星邸の位置づけや歴史的背景についてデータ化の必要性を感じた。現地を見た感想を交えて言えば、建物だけではなく緑や外堀などの付帯施設を含めて一体的に利活用の対象にすべきと考える。建物を単純に保存するだけではなく、その歴史が俯瞰できるような展示機能のようなものを用意するなど、「赤星家」や「赤星鉄馬」の歴史的価値を検証する仕組みも必要ではないかと思う。あとから増築された建物も利活用の検討を行ったほうがよいのではと思う。

公園は、整備の時代から活用の時代に替わり、土地のポテンシャルを引き出しつつ収益性を高める取り組みが行われている。現地を見ると建物の雰囲気は凄いため、それを使っていく上で収益性を意識することも考えていく必要があると思う。

「建築ファン」だけでなく、いろいろな価値観をもつ人を集められるような仕掛けができるとよいと考える。また、この建物は庭との関係が大事で、中から見える庭の美しさを感じた。

10月の一般公開では、100人の募集に対して、1675人(965組)もの方々から申し込みがあり、注目の高さを感じた。緑と歴史的な建物の保存はもちろん、多くの方にご覧いただき、この施設が市民のみなさんにとって良かったなというものになれば良いと思っている。

庁内ワーキングの報告書にある「利活用における基本的な考え方」として、建物の有効活用と財政負担の軽減は市としてそういう観点が入るのは当然だが、旧赤星邸の歴史的、文化的価値をいかに損なわないで残していくかという観点も必要ではないかと思う。今後建物の有効活用を図る上で登録有形文化財に手を加えることもあると思うが、最小限度にいくべきだと思う。建物、庭園、外堀を含めての歴史的価値があると考えられるため、この一体感にも文化財的には配慮が必要と思う。

道路側からどう建物を見せるか、建物に入ったときにどう庭園を見せるかという部分はかなり頭をひねらなければならないと思う。また樹木が道路沿いや民地沿いに多く、オープンスペースとして開放するとなると、建物の管理や緑や空間の管理をどうするかというのは大切な視点である。樹木の状態について具体の検討が始まる前に樹木医に見てもらうなども必要なのではないか

と考える。現地は一回見てよい空間だと感じたため、うまく活用できれば良い拠点になると思う。

歴史、文化、地形といったところから紐解いていき、ここにどういう資産価値があるのかをこの会議で共有化しつつ、整理し文脈（コンテクスト）を作っていきたい。資産価値に裏打ちされた文脈づくりにより、利活用の方向が見えてくると思う。建物と庭、その佇まいや雰囲気も含め価値あるものとするアトニン・レーモンドの建物だけを保存すべきなのかという議論も必要と考える。室内空間はレーモンドの妻が担当されたということで、「夫妻」でどのように内部空間を作っていたのかについても着目したい。この建物が良好な形で現存しているというのは、修道女会による50年にわたる活用が今の良い状態を担保したのではないかと考えることから、そういったところも文脈づくりに盛り込んでいければと思う。

これだけの庭の広さとこの規模の住宅がこの状態で残っている場所はなかなかなく、この組合せ自体も非常に価値があると思う。1934年当時は木造住宅ばかりの中に、逆に信じられないようなものが突然武蔵野の風景の中に建ち、地域の方々の驚きのようなもの、それをどれぐらい取り戻せるのかということも利活用で大事なこともかもしれない。

建物は住宅～修道院と限られた使われ方をされたためミステリアスな部分もあり、それはこの建物の社会的価値の一部でもあるので、その部分を残しつつ開かれた形にしてゆくのは難しい課題である。庭は文化財にはならないが、建物と庭との関係では「サロン」としての役割、多くのお客さんを招いてのパーティーや会の開催などが当たり前に行われていたのではないかと、そのような建物の歴史、利用の歴史を想像できるようになるとよいと考える。

電線の地中化により東側の通り沿いの背の高い木が活かされれば、東側の通りは他とは違う公園のような通りが変わっていく可能性があるのではないかと考える。

この建物ができた当時は五日市街道まで赤星邸があり、その向かいに成蹊学園がある。成蹊学園の本館が先に建ち、本館はレンガ造り風の建物でそれと対比する形で意図されたかは分からないが建っていた。その意味では周りに対して目新しさがあったのではないかと考える。ここに修道女会があった当時、街の雰囲気として大変良いなと思っていたため、その歴史は大事にしたい。

登録有形文化財であるため、建物を大事にすることは重要であるが、そのために使い勝手が悪くなると利活用する意味がない。ここに建物がある意義をフルに発揮できるようになればと考える。

## ◆第2回有識者会議（R5.2.15）

○保存と利活用のバランス、何を大事にし、優先度をどのように考えるか（内容別発言概要）

### 1 庭・樹木について

- ・植栽だけを見るとバランスは決して良くない。樹木の状態や配置、植樹等いろいろな課題がある。自然の形での保存、あるいは有効活用など様々な意見があるがそのようなバランスをどう捉えるかの検討が必要。
- ・ワークショップでも武蔵野の自然が残っているのが良いという意見があったが、実際には武蔵野自然とは違うし、最初に庭園として完成した時と修道女会が使っていた時とでも違う。何が大事なのか、どの時点を活かすのか、課題であると考えている。
- ・あのような大きな木がまちなかにあるというのか珍しい。木が大きいということは、戦禍や災害、開発にさらされなかったという意味で、社会のあり方やまちの作り方を考える上でヒントになると思う。どの段階の木を残すかというのは美的な問題になってしまい結論が出なくなる。都市史的な観点から木の存在を見た方が正しい評価ができるのではないか。
- ・平和な時間が続いたから木が大きく育ったというのは大事な視点だと感じた。
- ・庭は設計図がなく、使っていく中で手を加えていったという流れだとすると、歴史的意味合いは低いことも想定されますが、少なくとも今ある緑をまず大切にしよう。あれだけの大きな緑は、都市の快適な温熱環境に貢献するとか、都市の防災に大事だとか、そういったものの方が軸足にあるのではないかと感じる。

### 2 建物の保存と利活用について

- ・市民からの意見として、使われなくなってダメになっていくというのも好ましくないし、あまりにも変更が加えられてしまうのも、といった様に、両方を懸念する意見があった。

- ・保存よりの意見と利活用寄りの意見の両方がある、現時点では両方活かせるような形で検討を出発するのが良いと思う。
- ・建物と庭では利活用の視点が違うと考える。建物は歴史的背景や意味合いを読み取り保存しながら理解してもらって活用することが大切。
- ・利活用の視点としては、レーモンドの建物自体は建物の中を見て回るということだけで成立するようにしておき、時々そこでイベントなどが開かれるような形にし、隣の2つの建物のどちらかで、歴史の展示を補うように作りこむというのもあるかなと思った。レーモンドの建築ギャラリーのようなものは現在日本にはなく、あるいは赤星家の歴史や修道女会の歴史などを昭和史＝現代史として展示するのもあるかなと思う。
- ・地域にお住まいの方々の理解が、利活用の不適を決める大きなファクターになると考える。住居環境を害するような、同時に多くの人々が集まるような使い方は難しいと感じる。庭でのパーティーやなどは音が周りに届くため、人々が三々五々集まっては帰るような利活用を考えなければいけないと思う。
- ・建物の保存については徹底的に行い安全性も担保するのが必要。
- ・建物利用としての展示という事に関しては、実施にあたり調度との一体化など十分な議論が必要と考える。見学者が建物を散策する時の目障りにならないような工夫も大事なことだと考える。

### 3 建物と庭の一体的利用について

- ・建物と庭の関係について、一般公開などで共通して、建物から見た庭、庭から見た建物に関心を示された方が多かった。接待時に改変された部分が建物の景観に大きく影響しているため、そこをどうするかは大いに議論となると思うが、建物と庭の一体性は大切にしたい点だと思う。
- ・庭は歴史的には暮らしの中で意味を持っていたものであり、建築と相まってどの様に使われていたのかを考えて、これからの時代のなかで意味を持たせていくというのが大事だと考える。その際に、「展示」とすると時が止まるが、レーモンドの建築に対する思いを反映し、

庭を含めた生活シーンを見せ、これを生かした活動をすることで「展示」が生きてくると思う。

- ・ 建物の中と外の連続性というのは、レーモンドが日本に持ちこんだもので、旧赤星邸の1階のリビングも床が低く、庭とのつながりを持たせている。レーモンドの自邸にも屋根付きの外のリビング空間がある。日本では半屋外で食事をするという文化は無かったが、そのような空間はレーモンドが導入した。旧赤星邸には藤棚のテラスがあるが、オリジナルの設計では藤棚ではなく可動式のテントがあり、外のリビングとして設計されていた。この空間を活かして、庭でもあり建物の一部である場所でお茶を飲むというのは、とても良いプログラムになるし、良い仕掛けになると思う。
- ・ 赤星家の歴史は大事で大切にしたいが、「歴史館」のような展示にならないような工夫が必要。今の時代は情報発信が重要で、そのコンテンツを手段において活用することを考えるのが大事。
- ・ 藤棚のテラスなどや庭を見て、カフェの要望が多かった様に感じる。カフェをメインに、ということではないが、お茶を飲める機会を設けるなど、市民に活用してもらう上では、記憶とか愛着にもつながると考えるため、そういった視点は大事にしたい。
- ・ 庭は地域のリビングという位置づけで、何を大事にするかという観点では、庭については大きな樹木があって中央に心地よい広がりがあるという大きなフレームが大事で、それを大事にしつつ、庭の中でそれを見るのと、建物の中から眺めるのと、それを大切にしながら庭を整えることが良いのではないか。庭につながる開口部ももっと開放されても良いのかもしれない。それがカフェのような近所の方々集まるコミュニティの場であるという、観光というよりは市民のためのリビングという位置づけを大事にする方向性かなと感じる。